

館燈

No.172

2009. 7. 15

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

今様の図書館へ	1
廃棄された将軍吉宗側近の書状－附属図書館 2009年春季特別展を終えてー	2
附属図書館2009年秋季特別展のお知らせ	3
グループラーニングエリアをご利用ください!	4
EU 展開催報告	6
利用者から見た図書館	7
新しい保存書庫の収蔵資料の利用について.....	8
本学教員著作物寄贈リスト	8
平成20年度附属図書館統計	9

今様の図書館へ

松 浦 好 治

私の中には、図書館のイメージがあります。森閑としたリーディングルームには緊張感があり、頁を繰る音が聞こえ、ペンを走らせるなめらかな響きがするのです。それ以外の音は皆無です。それは、坐禅に没入する僧や沈黙の時間を重視する修道士のいる空間に接する感覚に似ています。

かつては、学問は、神が世界に隠しておいた真理をひたすら追い求める求道者が神の奇跡を明らかにするものと考えられたこともありました。ニュートン力学の世界、リンネの植物分類学の世界がそのような発想と無縁でないことは科学史が教えています。

図書館と知の世界との間には、求道者である個人がいたのです。知的な営みは、個人のものであって、個人はひたすら黙々と自分の知的な求道に努めていたのです。

しかし、現在の私たちの知的な営みは、個人中心の求道者の世界とはずいぶん違ってきます。理科系の研究室をみると、みんなが集まって議論し、雑談してアイデアを具体化し、実験した成果をみながら、知的な仕事が進んでいきます。文科系でも、議論や雑談が知的創造に貴重な糧を与えています。その一方で、資料を読んで考えるという個人の求道者的な作業も生きています。私たちの知の世界は、求道者の世界と騒がしく議論する世界の両方を忙しく行き来する世界のようなのです。

図書館は、二つの世界を忙しく行き来する現代の知の世界に対応して変わりつつあります。数人で集まってブレインストーミングをしながら「何が問題の核心か?」「どんな情報を吟味しないとイケないか?」をはっきりさせて散会します。その足で静かなリーディングルームで文献やビデオ・写真・史料に集中して考えをまとめます。コーヒーでも飲んでリラックスしながら、さらに考えをいじり、もう一度仲間と会って、軽い「雑談」を楽しみます。雑談をしながら、脳の一部は「あの問題」をあれこれ触っています。

さて、再度集まって、誰かの調査結果を集中して聞きます。報告の弱点を指摘したり、「これはいいアイデアだ」と感心したりして、また森閑としたリーディングルームに戻ります。

これは、なかなか楽しい知的生活です。

図書館は、こんな知的生活を受け入れて、育むことはできないでしょうか。現在、名古屋大学の附属図書館の2階、メインフロアはその試みをしようとしています。「話し声が聞こえていい図書館」の導入です。それは、図書館が二つの知の世界をつなぐ場になろうという宣言です。

昔の「あの静かな図書館」を知る人にとっては驚きでしょう。頁を繰る音だけが聞こえる世界と談論風発の世界を一つの建物空間の中でつなぐのは、容易なことではありません。知の世

界を体験した人なら誰でも知るように、革新の試みは多くの場合失敗に終わります。しかし、山のような失敗の中から、新しい世界が生まれるのもわれわれの体験です。

科学革命の構造について論じたクーンが指摘していますが、新しいパラダイムは、旧パラダイムがもっていた基本概念群の意味を大きく変えていきます。同じ概念でももつ意味が変わります。それは、キッチンの流しをリフォームす

ると、冷蔵庫を買い替え、食卓を新しくすることになるのに似ているのかもしれませんが。

図書館は、ある意味で大きな一步を踏み出したのかもしれませんが。変化は、不満と期待の入り混じったものです。利用者と職員の方々とご相談しながら、名古屋大学の図書館システムの発展に尽くしたいと思います。

(まつうら・よしはる 附属図書館長)

廃棄された将軍吉宗側近の書状

—附属図書館 2009 年春季特別展を終えて—

齋藤夏来

附属図書館 2009 年春季特別展「旗本高木家主従の近世と近代－高木家文書と小寺家文書－」は、去る 5 月 11 日に開幕し、552 名の展示会入場者のほか、5 月 16 日の講演会には 178 名の聴衆を迎え、6 月 5 日に無事閉幕することができた。ご協力いただいた関係各位に厚くお礼申し上げたい。

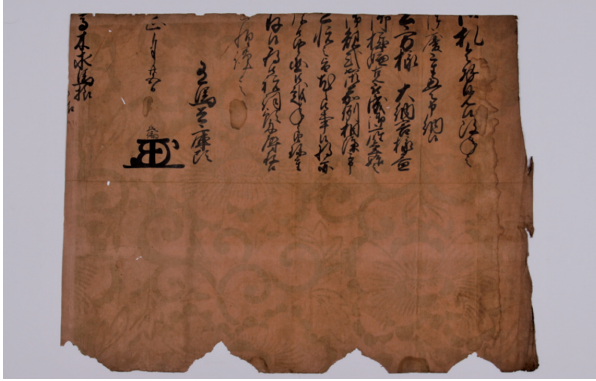
今回の展示は、昨 2008 年 6 月に、附属図書館研究開発室が大垣市から寄託を受けて調査に着手した、旗本高木家（西家）の旧家臣であった小寺家伝来の古文書（以下、小寺家文書）約 8,500 点の主内容を、初めて一般に公開したものである。今後、附属図書館が所蔵する高木家文書（西高木家文書）と密接に関わる古文書群として、内容分類目録を整備し、主要な文書については写真撮影し、附属図書館の HP 上などで学術情報発信する予定である。江戸時代の旗本主従の双方に、これほどまとまった形で古文書が伝来している事例は極めて希であり、高木家文書と小寺家文書の関連を構造的に把握し、貴重な地域の歴史情報資源として提示してゆくことが求められている。以下、小寺家文書の全体構造と、高木家文書との関連性について、展示会の準備作業を通じて得られた現時点での知見を報告しておきたい。

小寺家文書のうち、高木家の家臣時代、つまり江戸時代の古文書は約 1,000 点である。小寺家は、高木家の所持する山林を管理する山奉行であったことから、附属図書館が所蔵する高木家文書の分類で、「B 山林 10 林野 1 山林」の項

目に入れることのできる古文書が多数存在する。また、高木家臣として出仕していた関係上、高木家文書の「C 家臣」の各細目に入れることのできる古文書も多く存在する。その他、高木家の木曾三川流域における活動に関わる「E 治水」や、主従関係の解体にいたる「H 明治 1 国事 1 新政出仕」に分類できる古文書も少数ながら存在し、きわめて興味深い内容を含んでいる。高木家文書の主要部分を所蔵する学術機関として、把握しておくべき古文書群であることが明らかになったと言える。

意外だったのは、こうした高木家臣方に伝来していることが想定できる古文書とは別に、本来であれば主家・高木家に伝来すべき「F 家政」に分類せざるを得ない古文書が、小寺家文書の中から、少なからず見出された事実である。例えば、小寺家と交際関係を持つはずもない江戸幕府の老中や若年寄、あるいは尾張藩や大垣藩の重臣など、高い身分の武家からの書状類である。その中でも象徴的な存在は、将軍吉宗の側近であった有馬氏倫の書状（図版）である。書状の内容は、さほど特筆すべきこともない儀礼的な年賀返礼状であるが、なぜ、こうした古文書が小寺家に伝わったのかが問題である。

この謎を解く鍵は、おそらく、近代以後の小寺家の営みの中にある。展示会や展示図録でも紹介したように、明治期から昭和期にかけて小寺家当主であった弓之助（生没 1854～1938）は、上記のような江戸時代の小寺家文書を自分でまとめなおし、一部は軸装して保存を図るな



図版 有馬氏倫書状

ど、自家や旧主高木家の歴史に深い関心を示している。岐阜県学務部が、昭和3年(1928)発行の『岐阜県史蹟名勝天然紀念物調査報告書第三回』で、「多良高木家陣屋跡」を掲載するにあたり、弓之助に証言を求めたのも、その学識に信頼を寄せていたからであろう。注目すべきは、その弓之助が、明治23年(1890)の父・林平宛の書状で、北高木家屋敷の購入について打診していること、実際にも、北高木家屋敷跡は、今日まで小寺家の所有に帰していること、有馬書状の宛先は北高木家8代当主求馬允貞であること、以上の3点である。ここから推測してみると、歴史に深い関心を持つ弓之助は、おそらく旧主家・西高木家に隣接していた一族の

北高木家の家産整理に協力し、建材等をリサイクルする中で、建具の裏貼であった跡も明確に残る有馬書状などを見出し、自家で大切に保存したのではないかと考えられる。この推測の可否は別として、附属図書館が所蔵する高木家文書に直接的に関わる江戸時代部分の小寺家文書の来歴や素性を知るうえで、近代以後の部分の整理と検討も決しておろそかにできないことを確認しておきたい。小寺家文書の全体像を正確に把握することで、高木家文書をみているだけでは分からない武家文書のアーカイブ、すなわち、保存措置が取られず襖の裏貼などとして廃棄された文書類について考察する手がかりも得られるのではないかと考えている。

ちなみに弓之助は、先祖の記録だけでなく、子供たちの記録も大切に保管していた形跡があり、娘の才が通った中京裁縫学校に関する大正期の記録は、後身である現・中京女子大学にとっても大変に貴重なものとのことである。高木家文書と直接的に関わる部分はもちろん、その後の近代言書の部分についても、多方面の要望に応えられるような内容分類目録の整備と学術情報発信に努めてゆきたく思っている。引き続き関係各位のご理解とご支援をお願いしたい。

(さいとう・なつき 附属図書館研究開発室)

附属図書館 2009 年秋季特別展のお知らせ

「学校沿革史は語る — 近代日本の中等学校と名古屋大学の前身校 —」

中央図書館所蔵の「中等学校史誌コレクション」は、2000冊余りにのぼるもので全国でも屈指の規模を誇っています。コレクションには戦前に刊行されたものも多く、旧制度下の中学校や高等女学校という普通教育機関だけではなく、商業学校や工業学校などの実業学校まで含まれています。一方、名古屋大学の前身校である、第八高等学校、名古屋高等商業学校、岡崎高等師範学校、名古屋帝国大学医学部につながる医学校、医学専門学校、愛知医科大学(予科)などは、中等学校からみて魅力的な進学先であっただけでなく、さまざまな交流の機会ももっていました。今回の展示では、学校沿革史を中心に、当時の生徒が書いた日記、成績表、絵葉書、学校の刊行物、教科書や同窓会誌、学

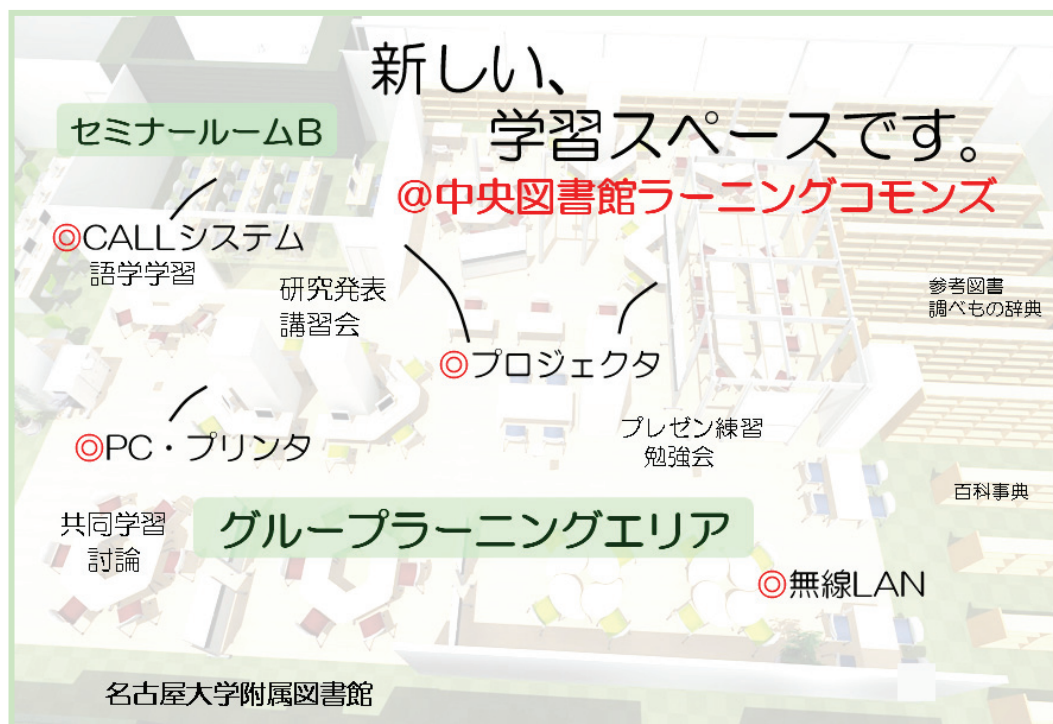
校関係公文書等の関連資料とあわせて展示・公開し、中等学校生徒の学びと生活、夢や進路について浮かび上がらせます。多数のご来場をお待ちしています。

期 間	2009年10月2日(金)～ 10月30日(金)(日曜・祝日は閉室)
時 間	9:30～17:00
場 所	中央図書館4階展示室ほか
講 演 会	2009年10月3日(土) 13:00～15:30(予定)
場 所	中央図書館5階多目的室
講 師	佐々木享(名古屋大学名誉教授)
演 題	「名古屋帝国大学の創立と近代日本の中等教育」
展示解説	吉川卓治(名古屋大学教育発達科学研究科准教授)

グループラーニングエリアをご利用ください！ —中央図書館ラーニング・コモンズ—

ラーニング・コモンズの一部、グループラーニングエリアが中央図書館2階南側にオープンしました。グループで討論や共同作業ができるスペースとして、毎日多くの学生の皆さんに利用されています。

二カ年計画のラーニング・コモンズは2年目の今年度も整備を進め、さらに充実したエリアを拡大する予定です。



【ご利用時の注意】

- ・互いに気持ちよく利用できるよう、他のグループに配慮してください。
- ・学習以外の会話、携帯電話の使用はご遠慮ください。
- ・他の閲覧席と同様、飲食は厳禁です。持ち込む際はかばんの中に入れてください。
- ・静かに学習したい方は、3・4階の閲覧席をご利用ください。

グループラーニングエリア 全景

セミナールームB

図書館の講習会のほか、研究発表や勉強会にも利用できます。講習会等の予約のないときは自由にPCやCALLシステム（語学学習システム）が使えます。



プロジェクタ

プレゼンテーションができるように、プロジェクタ2台が設置されています。プレゼン力をみんなで磨きましょう。



グループ学習・PCコーナー

学習のための議論や討論ができる移動可能なデスクと、メディア教育システムのPCがあります。レポート作成や共同作業にご利用ください。

無線LAN

自分のノートパソコンを持ち込み、無線LANでインターネットに接続できます。



2009 日・EU フレンドシップウィーク協賛

「EU 展 (欧州議会と欧州議会選挙) + EU クイズ」 開催報告

名古屋大学 EU 情報センター (経済学図書室内) は、現在国内に約 20 箇所ある「EU 情報センター」の中でも 2 番目となる 1973 年に設立されました。以来、毎年数百冊の EU 公式刊行物を収集・整理し、学内のみならず一般の方々の利用に供しています。



EU 展の様子

本 EU 情報センターでは、EU への理解を広め深めることを目的として、毎年 5 月 9 日の「ヨーロッパ・デー」を中心に日本全国で開催される「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、経済学図書室ラウンジにて、5 月 7 日 (木) ~ 15 日 (金) の約 1 週間、「EU 展 + EU クイズ」を開催しました。

2006 年に開催を始めてから 4 回目の EU 展となる今年は、「欧州議会と欧州議会選挙」をテーマとして取り上げました。

EU の主要機関である欧州議会の議員は 5 年に 1 回、欧州加盟 27 カ国での市民による直接選挙で選ばれます。2009 年 6 月に行われた今回の欧州議会選挙の結果は、日本のメディアでも「中道右派の躍進」として報じられました。しかしながらこの「欧州議会」は、意外に日本では知られていないのが現状です。そこで、このタイムリーなテーマを「予習」となるように取り上げ、欧州議会の成り立ちや役割、政党、そして選挙について易しく解説するポスターや関連資料の展示、関連図書コーナーの特設、EU 資料の配布、景品つきのクイズ (EU オリジナ

ルボールペンを進呈) などを行ないました。「EU に議会があるなんて知らなかった」「欧州議会は何となく知ってはいたものの、政党まであったとは」。EU クイズは展示内容の範囲内で解ける問題をご用意しましたが、実際に殆どのクイズ参加者のみなさまに熱心に展示をご覧頂き、全問正解して頂きました。EU オリジナルボールペンも、書き心地が良いと好評を頂いています。入場者のみなさまには楽しみながら EU についての知識を深め、また身近に感じて頂くことができたのではないかと思います。



EU 情報センター掲示板 (経済学図書室ラウンジ)

EU 展は 5 月に終了しましたが、その後も気になる欧州議会選挙の結果を、経済学図書室ラウンジに常設されている EU 掲示板に掲示しています。この他にも掲示板では、日々「EU News」の掲示や、自由にお取り頂ける配布資料の設置もしています。今回の展示会に参加して下さった方も、EU 情報センターをご存知なかった方も、是非一度お立ち寄り下さい。

(名古屋大学 EU 情報センター
(経済学図書室内))

《利用者から見た図書館》

ゆるせない話：公共性概念の希薄化

土橋力也

つねづね不満に思っていることがある。理解できないことがある。なぜ、図書館の本に勝手に書き込みをするのか。なぜ勝手に下線を引くのか。百歩譲って、ポストイットならまだ許せる。はがすのを忘れたという可能性もあるからだ。しかし、なぜ、公共物である図書館の本に、ペンで書き込むことができるのか。本当に分からないし、ゆるせない。

本を読むということは、著者と対話することだと私は思っている。本は著者の魂が具現化されたものであり、表出化されたものだとも思う。だからこそ、私はしっかりと著者と向き合い、その文章の意図を読み取りたいと考えている。そして、意図を読み取ったうえで内容を吟味し、自分の考えと照らし合わせたいのだ。その作業は、あくまで著者と読者による作業であり、第三者が介入する余地はない。

しかし、だ。本に書き込みや下線があることによって、その作業に横槍が入る。「ここの部分、重要ですよ」と勝手に知らされるのだ。そんなことは頼んでないし、聞いてない。私は著者と対話したいのに、第三者からの意見がカットインしてくる。本当に迷惑している。

「いまどきの若者はマナーがなっとらん」とか「不自由な思いをしたことがないから、相手の痛みが分からないのだ」とか、頑固ジジイのようなことを言いたいのではない。社会全体で道徳心が薄れてきているなどと、評論家のような口もききたくない。ただ、本は大切にしよう。私が言いたいのはそれだけなのだ。

もし、この「館燈」を手に取り、このコラムまで読んでいる人がいれば（関係者以外）、相当図書館が好きな人か、相当ヒマな人だろう。そのような人に本の大切さを訴えたところで何も変わらない。なぜなら、本当に聞いて欲しい人はこんなものを読まないからだ。ではどうすべきか。週に一度、図書館で働かせていただいている私にできることは何か。私は考えた。

大切なことは、やはり小さなことの積み重ねなのではないだろうか。本棚の本を整理したり、椅子を整頓したり、ゴミをひろったりといった、一見遠回りに見えるような小さなことが大切なのではないだろうか。こうしたことを積み重ね

ることによって、本を大切にするという精神の涵養につながるのではないか。

こう考えたのには理由がある。「割れ窓理論」を思い浮かべたからだ。割れ窓理論とは、「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」との考え方からこの名がつけられたものだ。(Wikipediaより引用)。つまり、軽微な犯罪を放置することによって、重大な犯罪が生じる可能性が高まるということである。

私は専門家ではないので、この理論の学術的な有効性がどのくらいあるのかは知らない。しかし、直感的に当てはまるような気がするのだ。ちょっとした図書館の汚れや乱れが、利用者に対して一種の安心感を与えてしまっているのではないか。それで、「本に書き込みをしても問題ない」という考えを植え付けてしまっているのではないか。

だからこそ、私がすべきことは、そうした小さなことの改善活動なのだ。図書館全体に「気を配っている」というシグナリングなのだ。何を今さらと思うかもしれない。浅はかな人間だと笑うかもしれない。でも、大切なことはいつも、普段見落としてしまうような些細なことの積み重ねなのだ。きっとそうだ。

(つちはし・りきや

経済学研究科博士後期課程3年)



新しい保存書庫の収蔵資料の利用について

附属図書館ではこれまで古川記念館（現博物館）の一部を保存書庫として使用してきましたが、平成20年度に新たな保存書庫が情報基盤センターの地下にでき、先ごろ資料を移動しました。さらに中央図書館から製本雑誌の一部を、夏季休業期間中に移動する予定です。

情報基盤センター地下の保存書庫の収蔵資料は、次の通りです。

- ・名古屋高等商業学校旧蔵書の中央館所蔵分、東京大学農学部保転本
（OPACの配置場所の欄には「中央保存」と表示されます。）
- ・中央図書館の参考図書のうち、電子的に代替されている、または比較的利用の少ないもの。
（OPACの配置場所の欄には「中央参保存」と表示されます。）
- ・中央図書館の製本雑誌のうち、電子的なバックナンバーのあるエルゼビア社及びシュプリ

ンガー社のもの（移動準備中）

（OPACの配置場所の欄には「中央保存」と表示されます）

- ・古川書庫から移動した部局蔵書

保存書庫内の中央図書館蔵書の利用につきましては、利用者の方は書庫に入れませんので、職員が定期的に書架から取り出してくる出納方式となります。資料の利用を希望される方は、OPACで検索の上、中央図書館2階の貸出カウンターで、申込書に書名、請求記号等の必要事項を記入してお申込みください。出納は、月・水・金曜日（国民の祝日、全学一斉夏季休業日等を除く）の週3回です。出納日の午前中までに申込みのあった資料を、午後には保存書庫から取り出してきました。館内閲覧や館外貸出等、資料の利用は出納日の翌朝からとなります。

なお、部局の蔵書の利用につきましては、当該部局の図書室にご相談ください。

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成21年4～6月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。（寄贈者の敬称は略します。）

所属	寄贈者名	寄贈資料名	資料ID	配置場所
国際言語文化研究科	長畑明利	Ezra Pound, language and persona / edited by Massimo Bacigalupo and William Pratt--Genova : Università degli Studi di Genova, 2008	41474353	中央学3 F 938.7/B
名誉教授	野村浩康	全国大学の研究活性化度 (2006年度版) / 野村浩康 [ほか] 著 -- 東京 : トランスアート, 2006.2	11663526	中央学3 F 377.7/N
環境学研究科	野村 康	Environmental education and NGOs in Indonesia / edited, Ko Nomura, Latipah Hendarti ; foreword, Emil Salim--Jakarta : Yayasan Obor Indonesia, 2005	41471962	中央学3 F 519/N
国際言語文化研究科	松本伊瑛子	恐怖からの思考：現代世界を解明する：国際シンポジウム / 名古屋大学大学院国際言語文化研究科；日本学術振興会助成 -- 名古屋：名古屋大学大学院国際言語文化研究科, 2009.2	11669659	中央学3 F 304/Ta
エコトピア	田中信夫	電子線ナノイメージング：高分解能TEMとSTEMによる可視化 / 田中信夫著 -- 東京：内田老鶴圃, 2009.4	11669674	中央学3 F 549.97/Ta
名誉教授	岩崎宗治	四つの四重奏 / T. S. エリオット [著]；岩崎宗治訳 -- 東京：国文社, 2009.4	11669660	中央学3 F 931.6/E
経済学研究科	家森信善	大波乱時代の個人投資：むずかしく考えない株式投資 / 家森信善著 -- 東京：千倉書房, 2009.4	11669663	中央学3 F 338.155/Y
名誉教授	田中 浩	大気科学とその周辺 / 田中浩著 -- 相模原：現代図書, 2004.2	11669673	中央学3 F 451.3/Ta
教育発達科学研究科	西野節男	現代カンボジア教育の諸相 / 西野節男編 -- 東京：東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター, 2009.3	11673001	中央学3 F 372.235/N
生命農学研究科	新美輝幸 柳沼利信	虫たちが語る生物学の未来 -- 京都：衣笠会, 2009.6	11673011	中央学3 F 486.1/Ki

平成20年度附属図書館蔵書冊数及び年間図書増減数・雑誌受入数

区 分	蔵書冊数 (H21.3.31現在)				平成20年度図書増減数						平成20年度雑誌受入種類数		
	和 書	洋 書	合 計	和 書 受入(増)	除却等(減)	洋 書		合 計 (増)-(減)	和雑誌	洋雑誌	合 計		
						受入(増)	除却等(減)						
中央図書館	623,115	455,833	1,078,948	12,688	1,017	3,984	332	15,323	2,318	468	2,786		
医学部分館	66,158	109,354	175,512	1,056	269	1,602	283	2,106	566	532	1,098		
医学部分館保健学図書室	32,852	6,662	39,514	1,178	226	584	9	1,527	339	51	390		
文学図書室※1	163,245	106,453	269,698	3,374	170	2,327	129	5,402	890	392	1,282		
教育発達科学図書室	62,329	43,029	105,358	1,128	4	551	2	1,673	390	144	534		
教育学部附属学校図書室	23,788	457	24,245	1,269	0	28	0	1,297	55	1	56		
法学図書室	129,250	91,103	220,353	3,293	11	2,164	2	5,444	541	60	601		
経済学図書室※2	135,222	125,773	260,995	5,092	3,734	1,732	499	2,591	666	394	1,060		
情報・言語合同図書室※3	118,510	78,078	196,588	2,786	1,197	1,837	1,009	2,417	299	165	464		
理学図書室※4	18,956	68,818	87,774	1,114	139	696	280	1,391	221	435	656		
数理科学図書室	11,317	88,497	99,814	766	1,173	2,694	666	1,621	34	368	402		
工学図書室※5	80,431	119,015	199,446	2,458	3,440	1,223	3,409	-3,168	738	329	1,067		
生命農学図書室※6	50,017	48,866	98,883	1,261	882	591	295	675	503	171	674		
国際開発図書室	27,251	30,057	57,308	1,553	0	1,555	0	3,108	88	146	234		
環境医学研究所図書室	947	5,986	6,933	12	0	4	0	16	114	27	141		
太陽地球環境研究所図書室	2,647	10,218	12,865	54	0	237	0	291	9	8	17		
地球水循環研究センター図書室	3,975	12,234	16,209	203	23	153	40	293	70	101	171		
情報連携基盤センター図書室	1,719	3,064	4,783	131	48	62	49	96	26	2	28		
アイソトープ総合センター図書室	196	108	304	3	0	5	0	8	6	1	7		
留学生センター図書室	2,859	1,468	4,327	81	1	62	1	141	3	0	3		
総合保健体育科学センター図書室	7,597	4,896	12,493	39	0	37	0	76	20	13	33		
合 計	1,562,381	1,409,989	2,972,350	39,539	12,334	22,128	7,005	42,328	7,896	3,808	11,704		

※1 文学図書室の対象には、環境学研究所の一部を含む。
 ※2 経済学図書室の対象には、附属国際経済政策研究センターを含む。
 ※3 情報・言語合同図書室の対象には、情報文化学部及び国際言語文化研究所の一部を含む。
 ※4 理学図書室の対象には、遺伝子実験施設及び年代測定資料研究センターの一部を含む。
 ※5 工学図書室の対象には、エコトピア科学研究所のほか、環境学研究所及び情報科学研究所の一部を含む。
 ※6 生命農学図書室の対象には、生物機能開発利用研究

図書館利用状況 (平成20年度)

項 目	平成19年度	平成20年度	備 考
I 奉仕対象者	23,841人	24,172人	学部学生：9,995人 院生：6,448人 教員：3,742人 職員：3,987人
II 閲覧サービス			
1. 年間開館日数	349日	354日	うち土・日・祝日開館：113日
2. 年間入館者数	708,922人	710,463人	うち学外者：42,895人
3. 館外貸出冊数	133,230冊	135,930冊	一日平均：384冊
III 参考調査サービス			
1. 調査依頼者数	2,465人	2,882人	学内者：1,933人 学外者：949人(来館者のみ) 延取扱件数：3,988件 (E-mail, Faxを含む)
2. 他機関への調査依頼	9件	4件	STN：0件 J-Dream：0件
3. 情報検索利用件数	0件	0件	PDF：191件 読売新聞：12件 その他：10件
4. CD-ROM利用件数(スタンダードアロン)	172件	213件	MAGAZINEPLUS：13,193件 Web of SCIENCE：72,706件 JCR：13,188件 MEDLINE：12,533件 BA：8,632件 ERIC：4,656件 PsycINFO：17,489件 Cochrane：17,365件 Cinahl：6,289件 (※利用統計が採取できる主なものを掲げた。)
5. オンライン検索セッション数	184,309件	166,051件	FirstSearch ECO：1,943件 EBSCOhost：20,454件 ScienceDirect：710,542件 SpringerLINK：88,265件 Blackwell Synergy：58,017件 WileyInterScience：113,489件 ProQuest：2,149件 Emerald：1,165件 PAO：514件 ACS：236,495件 Nature：111,613件 Science：38,454件 OUP：37,126件 BioOne：2,294件 Annual Review：7,093件 Cambridge：6,447件 OVID：14,861件 (※利用統計が採取できる主なものを掲げた。)
6. 電子ジャーナル利用件数(全文表示)	1,303,806件	1,474,041件	学内件数：1,436,284件 学外件数：319,923件
7. OPACアクセス件数	1,733,562件	1,756,207件	学内件数：3,814,866件 学外件数：3,688,029件
8. 図書館HPアクセス件数	10,810,685件	7,502,895件	
IV 相互利用サービス(他機関)			
1. 図書貸出(貸借受付件数)	1,391件	1,439件	
2. 図書貸受(貸借依頼件数)	479件	560件	
3. 文献複写受付件数	7,041件	6,914件	
4. 文献複写依頼件数	578件	678件	
5. 他機関の利用申請	116件	164件	
V 館内資料の文献複写利用			
1. 文献複写枚数(館内備付複写機利用)	828,668枚	827,577枚	紹介状発行：51件 国立大学共通閲覧証発行廃止(旧2.7), 東海地区国立8大学図書館間での紹介状廃止(旧4.7)
2. コピーデリバリャーサービス	156件	156件	
VI 館内施設利用			
1. 研究個室	3,280件	3,780件	延利用人数：10,225人
2. 演習室・サテライトラボ	34件	29件	延利用人数：442人(サテライトラボPC利用者数：43,412人)
3. グループ研究室	1,030件	792件	延利用人数：3,752人
4. 共同研究室	388件	356件	延利用人数：736人
5. 視聴覚室	221件	128件	

名古屋大学学術機関リポジトリ (NAGOYA Repository) 統計

NAGOYA Repository (<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/>) は、学内の教育研究成果を電子的な形態で収集・保存し、Web上で発信しています。平成18年の公開後、順調に登録が増え21年3月末で8,350件になりました。本文のダウンロード回数は累計110万回を超え、現在も増加傾向にあります(図1)。

20年度に登録したのは、学術雑誌掲載論文^(注1)、博士学位論文^(注2)、紀要論文^(注3)を中心に、その他、科研費報告書、COE関係資料、学生論文コンテスト受賞作などです(図2)。

利用者のアクセス方法はGoogle等の検索エンジン経由が70%を超えますが、最近ではCiNii(NII論文情報ナビゲータ)や教員プロフィールなどからのリンクが整備され、それらを通じて参照されることが増えています。

(注1) 出版社の認める著者の最終原稿による公開を含む。

(注2) 提出にあわせて登録された新しいものと、遡及的に許諾を得た過去分を含む。

(注3) 新規刊行分と、編集委員会等により著者の許諾をとり電子化した過去分を含む。

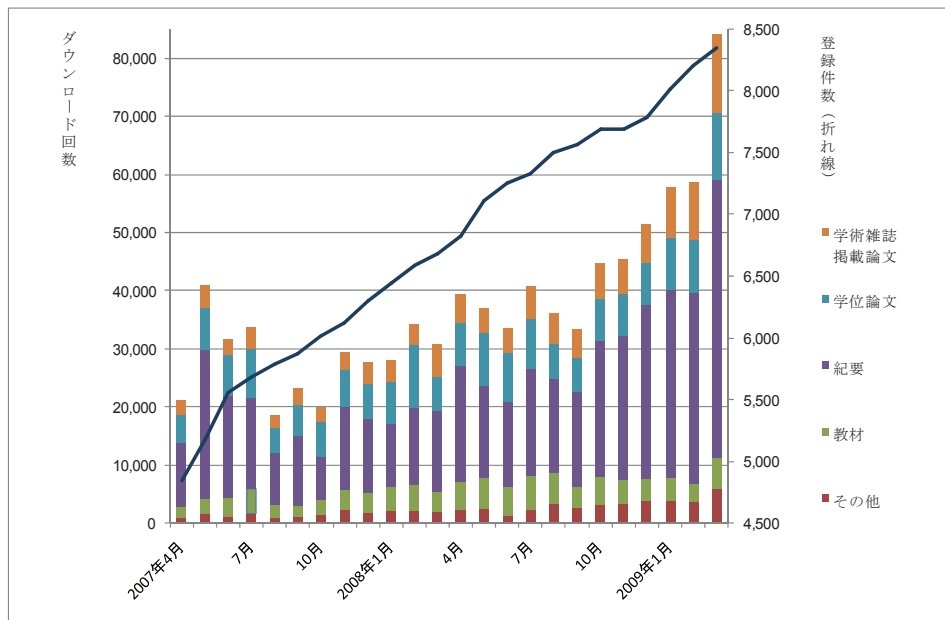


図1 登録件数とダウンロード回数の推移

タイプ	20年度追加件数	累積登録件数
学術雑誌掲載論文	473	1,524
博士学位論文	148	492
紀要論文	826	5,801
教材	7	67
その他	235	466
合計	1,689	8,350

図2 タイプ別登録件数

NAGOYA Repository 研究者協力コミュニティにご参加ください。
 参加いただいた方には、登録論文のダウンロード回数を定期的にお知らせします。
 連絡先：学術情報システム掛 内線 3689 ir-admin@nul.nagoya-u.ac.jp

(情報システム課)

2009 年度名古屋大学ホームカミングデイ附属図書館の行事紹介

附属図書館では10月24日(土)の第5回(平成21年度)ホームカミングデイに、以下の1~4の行事を中央図書館で、5を豊田講堂南側ピロティで開催いたします。皆様のご来場をお待ちしています。

1. 秋季特別展「学校沿革史は語る一近代日本の中等学校と名古屋大学の前身校一」
9:30~17:00 4階展示室等で開催
2. 図書館見学ツアー
2階受付集合、10:00から15:00まで、30分間隔でスタートします。職員が約30分程度かけて館内をご案内します。なお、当日はラーニング・コモンズ整備工事期間中の予定であり、2階など一部見学できない場合があります。
3. オープンライブラリー
8:45~17:00 館内の自由見学ができます。

4. スライドショーによる図書館紹介
8:45~17:00 2階南側グループラーニングエリアで上映します。
5. 本のリユース市
10:00~17:00 豊田講堂南側ピロティで、附属図書館で不用となった本を有償あるいは無償でお譲りします。語学辞典、ちょっと変わった事典、哲学・文学・化学・数学などの学術書、カラー写真満載の美術雑誌、趣味・娯楽雑誌などなど……。貴方のお宝が見つかるかもしれません。数に限りがありますので、お早めにお越しください。なお、収益金は、学生によって選書される学生のための図書購入費に充てる予定です。

➤➤➤➤➤➤➤➤➤ お知らせ ➤➤➤➤➤➤➤➤➤

☆ 環境医学研究所図書室の閉室について

環境医学研究所図書室は、環境医学研究所本館の耐震改修工事の為、平成21年6月8日(月)~平成22年3月31日(水)の間、図書室を閉室いたします。期間中は図書の利用が全てできなくなります。ご不便をおかけしますがよろしくお願ひいたします。

☆ 理学部化学図書室、数理図書室の移転について

理学部建物改修工事及び新図書室開室準備のため化学図書室は理学部A館2階244号室、数理図書室は理学部A館2階241号室に移転します。期間は平成21年7月中旬~平成22年3月ごろ(予定)です。なお、平成22年度には理学部5学科図書室(物理学、化学、生命理学、地球惑星科学、数理科学の各図書室)は統合され、新しくスタートする予定です。

【行事等】 < 21.4.6 ~ 21.7.5 >

- ・新入生向け図書ガイダンス(国際開発研究科) <4/7-4/9>
- ・EU資料展(経済学図書室ラウンジ) <5/7-5/15>
- ・平成21年度第1回附属図書館長と全学図書系職員との懇談会 <5/14>
- ・友の会トークサロン ふみよむゆふべ「舞台の上で<ふみ>を<よむ>」講師:滝川 睦文学研究科教授 参加者30名 <6/17>
- ・EUiセミナー(北海道大学附属図書館)参加者:杉浦花菜(経済)
- ・平成21年度図書系職員初任者研修 参加者19名 <6/30-7/2>
- ・工学図書室利用細則改正 改正内容:図書室名称の変更(土木工学図書室→土木系図書室)(H21.4.1)

編集委員会
 増田晃一(委員長) 小林恵子(中) 松脇まゆみ(中)
 佐藤華織(中) 大井千恵子(経済) 大塩和彦(情言)
 伊藤由美(理地球) 鈴木美奈子(医分館)